				(3) 錆が著しいこと又は素線切れが生じた部分の断面積の摩損がない部分の断面積に対する割合が七十パーセント以下であること。
		主索の摩耗粉の状況	全長の摩耗粉の固着の状況を目視により確認する。	主索の摩耗粉の錆が多量に付着し、素線の状況が確認できないこと。
		主索の損傷及び変形の状況	全長を目視により確認する。	著しい損傷又は変形があること。
		鎖の給油及び外観の状況	全長を目視により確認する。	イ　著しい損傷、変形、ねじれ、腐食等があること。 ロ　給油が不十分であること。
		鎖の摩耗の状況	基準階から加速終了位置又は減速開始位置から基準階までの間にかごがある場合に、鎖車にかかる箇所等鎖の最も摩耗の進んだ部分の長さ及び鎖車にかからない部分の鎖の長さを測定する。	最も摩耗の進んだ部分の長さが鎖車にかからない部分の長さと比較して伸びが一・五パーセント以上であること。
(四)	主索又は鎖の張り	張りの状況	次に掲げる方法のいずれかによる。 イ　各主索又は鎖の端末部のスプリングの高さを目視により確認する。 ロ　かご上において主索又は鎖を揺らし、その振幅を確認する。 ハ　かご上において触診により主索又は鎖の張りが均等であることを確認する。	著しい不均等があること。
(五)	主索又は鎖及び調速機ロープの取付部	昇降路の横架材並びにかご及び釣合おもりにおける止め金具の取付けの状況	目視及び触診により確認する。	ダブルナットにあっては、ナット間に緩みがあり、割ピンにあっては、割ピンに欠損、曲げ不足等があり、その他の方法にあっては取付けが確実でないこと。
		主索又は鎖及び調速機ロープの端部における止め金具の取付けの状況	目視及び触診により確認する。	取付けが確実でないこと。
		止め金具及びその取付部の損傷の状況	目視により確認する。	止め金具又はその取付部に損傷があること。
(六)	主索又は鎖の緩み検出装置	取付けの状況	目視及び触診により確認する。	取付けが堅固でないこと。
		作動の状況	作動の状況を確認する。	作動しないこと。
(七)	主索又は鎖の巻過ぎ検出装置	取付けの状況	目視及び触診により確認する。	取付けが堅固でないこと。
		作動の状況	作動の状況を確認する。	作動しないこと。
		作動の位置	作動したときのかごと緩衝器等とのすき間及びロープの巻き溝の状況を確認する。	かごが緩衝器等に接する前に作動しないこと又はロープの巻き溝がなくなる前に作動しないこと。
(八)	はかり装置（乗用エレベーター又は寝台用エレベーターであって、特殊告示第一第六号に掲げるもの以外のものに限る。）	警報並びにかご及び乗り場の戸の状況	検出装置を作動させ確認する。	令第百二十九条の十第三項第四号の規定に適合しないこと。
		取付けの状況	目視及び触診により確認する。	取付けが堅固でないこと。
(九)	戸開走行保護装置	設置及び作動の状況	設置及び作動の状況を確認する。	令第百二十九条の十第三項第一号の規定に適合しないこと。
(十)	地震時等管制運転装置（特殊告示第一第四号に掲げるエレベーターを除く。）	加速度を検知する部分の取付けの状況	目視及び触診により確認する。	平成二十年国土交通省告示第千五百三十六号第二第一号又は第二号の規定に適合しないこと。
		作動の状況	作動の状況を確認する。	平成二十年国土交通省告示第千五百三十六号第二第三号（かごの定格速度が二百四十メートル以上の乗用エレベーター及び寝台用エレベーターにあっては、特殊告示第一第五号）の規定に適合しないこと。